

平成30年度 大阪市立今津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

4 「大阪市英語力調査（英検IBA）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟課程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

5 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

平成30年度 大阪府立今津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理 科	国語A	国語B	数学A	数学B	理 科
3 年	学校	217	71	56	61	45	66	4.1	5.4	4.8	16.3	5.6
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	212	50.7	48.4	56.2	58.5	61.5	15.9	4.0	10.8	5.8	3.0
	大阪市	—	51.6	48.1	56.7	56.5	56.2	16.9	4.6	10.5	7.2	3.8
	9月4日 大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.3	7.3	3.6
2 年	学校	220	56.4	47.2	59.0	57.8	48.0	5.1	5.7	8.7	4.6	5.4
	大阪市	—	55.9	51.9	60.7	53.2	49.8	6.9	6.3	9.1	5.6	5.4
	1月10日 大阪府	—	57.0	52.6	61.8	53.4	51.3	7.1	6.4	9.2	6.3	5.3
1 年	学校	189	54.7	—	58.1	—	63.1	5.0	—	6.3	—	5.6
	大阪市	—	54.8	—	60.2	—	61.1	6.9	—	6.5	—	6.6
	1月10日 大阪府	—	56.2	—	61.3	—	62.0	6.7	—	6.7	—	7.2

※ 2年生は、社会A 理科B を選択

※ 1年生については、国語・数学・英語のみ実施

3 大阪府中学校3年生統一テスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3 年	学校	220	57.6	58.1	56.6	56.1	60.9
	10月4日 大阪市	—	60.2	58.8	59.2	57.1	60.7

4 大阪府英語力調査（英検IBA）

学年 実施月日		生徒数 (人)	語い 熟語 文法 (%)	読解 (%)	リスニング (%)	英検3級 LV以上 (%)	英検4級 LV以上 (%)	英検5級 LV以上 (%)
3 年	学校	216	64.1	55.9	58.2	60.6	—	—
	大阪市	—	62.6	52.2	53.2	52.8	—	—
2 年	学校	217	71.8	58.8	66.9	—	76.5	—
	大阪市	—	71.2	58.5	65.0	—	69.2	—
1 年	学校	194	57.6	57.8	64.3	—	—	82.5
	大阪市	—	56.5	53.2	63.3	—	—	79.4

5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャ トル ラン	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 子 男	学校	27.49	25.50	42.78	49.85	78.43	8.34	181.10	17.41	36.76
	大阪市	29.05	27.74	41.48	52.14	85.66	8.06	192.58	20.29	41.72
	全 国	28.84	27.36	43.44	52.24	86.06	7.99	195.62	20.55	42.32
2 年 子 女	学校	24.16	20.33	44.86	42.28	58.24	9.04	164.82	12.49	46.89
	大阪市	24.06	23.91	44.95	47.47	59.88	8.89	168.48	12.96	50.14
	全 国	23.87	23.87	46.22	47.37	59.87	8.78	170.26	12.98	50.61

平成30年度 大阪市内立今津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

- 1 全国学力・学習状況調査では、「理科」において大阪市の平均正答率を上回ることができた。
- 2 中学生チャレンジテストでは、3年生は、「社会」・「理科」・「英語」において大阪市や大阪府の平均正答率を上回ることができた。2年生は、「国語」・「理科」において大阪市や大阪府の平均正答率を上回ることができた。1年生は、「英語」において、大阪市や大阪府の平均正答率を上回ることができた。
- 3 大阪府中学校3年生統一テストでは、「英語」において大阪市の平均正答率を上回ることができた。
- 4 大阪市英語力調査(英検IBA)では、3学年ともに大阪市の結果を上回ることができた。
- 5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査については、平成31年度「体力づくりアクションプラン」を参照。

【今後に向けて】

各調査においても、本校の目標は大阪市及び大阪府の平均値を上回ることとしている。
その目標達成のためには、以下のことがあげられる。

- 1 学校全体が組織的に目標達成に向けて取り組む。
- 2 各教科が結果の分析を行い、次年度への課題をしっかりと共有する。
- 3 教科横断的な視点のもと、生徒ひとりひとりの学力向上に学校が一体化して取り組む。
- 4 これらの実現のために学校長がすすんでリーダーシップを発揮し、学校組織をマネジメントする必要がある。

これらの単年的ではなく、継続的に持続性をもって教職員の協働のもと、生徒の学力向上に努めることが重要である。